

おおにし・ひでゆき ●奈良県立医科大学臨床教授。医学博士。2000年12月に大西脳神経外科病院を開院。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医。第7回パンパシフィック脳神経外科学会会長、第18回日本臨床脳神経外科学会会長など。



様々な症例に携わった経験で迅速かつ安全性の高い手術を顕微鏡下手術が登場した早期から脳外科手術に携わり、国内初の「プレホスピタルレコード」による脳卒中の救急医療にも貢献するなど、豊富な経験・実績を持つ大西英之理事長。「大学を卒業した頃はまだ脳神経外科自体が特殊な

分野と見なされていたため、通り一遍のことはしては面白くないと考えました」として、現在の道を歩むことになった。

大西理事長は、特に技術を要する頭蓋底の手術も含め、さまざまな手術を行ってきた。技術や治療の質は、血管を縫う練習などの日常のトレーニングやさまざまな症例経験に加え、学生の頃から続け

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院

理事長・院長

## 大西 英之

# 高い山に挑むように一つひとつの症例に臨み 脳神経外科手術の技術・知識を培ってきた

てきた登山で培われた側面もあるという。ヒマラヤにも挑戦した他、転落事故や雪崩との遭遇なども経験してきた大西理事長。その中で、「派手なことをするのではなく、ミスをしたくないよう一步一步確実に進む。危険だと思えば引き返すことも辞さない」というように、粘り強く頂上を諦めないような手術のスタイルができてきたのだという。他にも、手術の前に頭の中で仮想の手術を行い、安全な進め方やいざという時の対策のイメージを作り上げ、難しいと思ったら再度情報を整理し直す。そのような事前の準備の考え方も、登山に通ずるものがあるという。

手のふるえを起こす本態性振戦への収束超音波治療など、大西理事長はより良い治療法を模索し続けている。「登山は一般的なルートやそれ以外、季節の違いなど、頂上までの道はさまざまです。医療も同様、1つの病気を治すのに、より安全で負担の少ないルートはいくらでもあると思うのです」

## 脳卒中の救急医療に注力し 回復期まで院内で対応する

大西脳神経外科病院は、兵庫県明石市の脳卒中医療に貢献してきた医療機関だ。救急隊が脳卒中か否かを判断する「プレホスピタルレコード」を国内で先駆けて導入し、現在では他施設と共同で子どもに脳卒中について教え、家族への知識の浸透を目指す「明石プロジェクト」も行っている。

治療においても、先進的な手法を積極的に導入。特に、血管の詰まりや、破裂・未破裂脳動脈瘤を開頭せずに治療する脳血管内治療に力を入れている。「日本脳神経血管内治療学会認定脳血管内治療専門医3名が在籍する体制のもと、24時間365日脳血管内治療を実施可能です。2017年からは専門的な訓練を実施する施設としての役割も担っています」と大西英之理事長。加えて開頭手術を担当する経験豊富な医師も揃っているため、両方の治療から患者の状態に合わせた治療の選択が可能だ。



SCUで術後の患者を手厚く診る



ハイブリッド手術室で行われる脳血管内治療

## 脳血管内治療などの最新技術を積極的に取り入れ 急性期から回復期まで切れ目ない脳卒中治療を

医療法人社団英明会

# 大西脳神経外科病院

受付時間:8:30~11:30/13:30~16:30

休診日:土・日・祝・年末年始 ※救急医療は24時間対応

〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島1661-1

TEL.078-938-1238 FAX.078-938-1236

<http://www.onc.akashi.hyogo.jp/>



理事長・院長 大西 英之

おにおし・ひでゆき●奈良県立医科大学臨床教授。医学博士。2000年12月に大西脳神経外科病院を開院。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医。第7回/バンパシフィック脳神経外科学会会長、第18回日本臨床脳神経外科学会会長など。

同院では、SCU(脳卒中ケアユニット)も備えるなど、治療後のケアを行う体制も充実させている。2017年6月には回復期リハビリテーション病棟を新しく開設する。「発症してすぐの急性期医療では2週間での退院が求められますが、高齢の方や重症の方はそのままに安定しないこともあります。リハビリ病院までの橋渡しとして、そうした方々を引き続き院内で受け入れることを考えています」と大西理事長。時には2週間より早く移ることも可能であり、より患者の状態に即した切れ目のない医療を目指せるようになるという。

同院は医療のさらなる向上を目指している。例えば手のふるえを起す本態性振戦の最新治療「収束超音波治療」を開始した他、脳血管内治療の最新機器「フローダクター」の導入準備も進めている。最新技術も含め、高度な治療を実践することで難易度の高い症例を他院から紹介されることも多い。同院はこれからも地域の脳卒中治療を担い続けていく。